

且つ胃の蠕動緩慢となる

過敏性は較著なる炎性症状を呈す

患者概ね胃部に壓重膨滿の感覺を生ず殊に食後に於て然り又胸骨後部に絞窄狀の感あり脊部に重感及び疼痛を訴ふ而して胃部は緊滿隆起し惡心嘔吐を發す食慾減退或は屢々異味を嗜むことあり又過敏性の者に在りては口渴を兼ね舌は帶白黄色の厚苔或は僅に線狀の白苔を帶ぶることあり呼吸に一種の臭氣を放ち齒齦腫起し齒質は常人に比すれば其不良を早徵す

便秘は通常の症候にして直腸に重壓を起し稀れには輕易の下痢を發することあり又四肢に厥冷を訴ふるは殆ど常とす眼結膜は僅かに黄色を現はすことあり而して不眠は特徴にして動作を嫌厭し精神沈鬱、心悸不正、呼吸促迫等を來す

酒客に本症を發する時は毎朝粘液狀水様物を吐出す是れ其一部は嚥下せる唾液なり

解剖所見

粘膜は概ね帶青色にして充血を呈すること有り然れ共多くは細微の黒點に由りて灰白色と爲る此斑點は組織の表層を占むる黑色の色素顆粒及び脂肪分子より成るものにして就中幽門部に於て著しく是れを見る

粘膜の肥厚は屢々見る所にして時としては胃の全壁非常に肥厚することあり

注意 劇しき胃痛を發し頻々の嘔吐殊に吐血する者は胃潰瘍なり又胃痛を起し灰白色の渾塊を吐し胃部に腫瘤を認め速に瘦削し殊に患者老年なる時は必ず胃癌なり

療法

身體を溫包し尙且つ腹帶を纏絡すべし感冒に原因せる者は入浴後發汗せしめ尙ほ溫罨法を施すべし食物療法は最も緊要なることは勿論なり概して消化爲し易き物を撰ぶを良とす而して能く咀嚼し且つ徐に喫し必ず大量を一回に取るべからず

脂肪性食物は消化し難き物障害あり酒精性の物は總て用ゆべからず

但し酒客に在りて少量の日本酒極上等を與ふるも差支なし
藥劑療法としては最も緊用なるは苦味丁幾にして三十滴を食後毎に
與ふべし又「マッサージ」も效顯あり
催眠暗示 粘膜炎の虚弱又は或る變化に依りて將來したるものなるを
以て其粘膜炎の強健に復すは今なり此意味に於ける觀念を強むるべし
斯く命じたる後既に胃は強健に復しつゝ、在り故に消化力も亦増進
したり夫れ倍々快方に赴けり略以上の如く暗示を毎回反復し患者自
ら治癒を覺えたりと訴ふる時初めて全癒暗示を爲すべし然らざれば
時に失敗を招くこと無しとせず何んとなれば毎日全癒暗示を繼續し
たればとも實際上全癒爲さざる時は遂に然々之を排斥するに至る總
て暗示は右に倣ひ決して初回より全癒暗示を爲すべからず

胃擴張

本症の原因を分ちて四種とす(一)幽門の狭窄ありて爲めに食物の十二
指腸に輸送せらるゝを妨害する症即ち潰瘍に基因する、瘢痕性狭窄、癌

腫性狭窄是れなり(二)單純の持續性胃壁弛緩にして其素因を有し殊に
多食する者(三)稀れには幽門部の癒癭(四)腫瘤(右側の轉位腎等に基因す
る壓迫に由りて將來する十二指腸上部の狭窄若しくは閉塞

症候

腹内に壓重在りて往々囊狀物の懸垂するが如き感を訴ふ精
神鬱憂し之れを其顔貌に呈す而して永久持續症に於ては甚だしく瘦
削するに至る屢々噯氣を發し嘔吐を起す是れ半ば消化し半ば分解せ
る大量の食塊を吐逆す其一部は數日前に飲食せしものなり便秘は通
常の症候と爲す

解剖所見

胃は擴張し時としては狭窄部を發見し胃の筋組織は各
處に在りて離隔することあり

豫後

病原に由ると雖も適當の療法を施す時は意外に佳良なり(日
本人に於ては多く輕症にして重症なる者は稀れなり)

療法

正規的療法としては胃唧筒を用ひ胃の内容物排除するにあ
り其他電氣を胃部に施し又「マッサージ」を用ゆるも亦效ありとす而して

食療法としては截挫せる肉類、魚膾、豆腐、粥等總て消化に容易なる物を取らしむるべし
催眠暗示 擴張せる胃部を輕壓し之れに微振動を與へると共に輕快爲せることを告げ尙其觀念を固執せしむること而して五回乃至七回の後に於て全く治癒暗示を爲すべし
本症は慢性の多きを以て從て輕過緩慢なるが故に輕卒に出でざる様注意すべし

胃痛

本症は胃の刺衝機亢進して疼痛發作、嘔吐及び胃機能障害を呈す

原因 本症は婦人に多くして男子に比すれば殆ど十倍せり而して貧血の症狀即ち萎黃病、失血其他子宮病等にして婦人生殖器の疾患は此病の素因を爲すべし

神経系に屬する全身の疾患例之依ト昆涇兒殊に歇私的里に於て往々之れを見る然れ共局處發症として胃より發することあり例之胃痛、胃

潰瘍等に於けるが如し之れを名稱するに症候的胃痛と謂ふ之れが誘因は飲食の不良及び強劇の神経性興奮殊に精神沈鬱等なりとす

症候 胃痛發作は劇甚に將來し十五分乃至數時間持續し其間歇時は全く疼痛無きか或は是れ在るも甚だ輕微なるものなり

此發作は往々卒然に起すものにして胃部に痙攣性、焚爍性、錐刺性の疼痛を發し脊部に向つて放散す又之れを上下にすることあり患者は蒼白にして痛苦を抱くの顔貌を呈す多くは身體屈曲し自ら手を以て胃部を壓迫す通常之れに由りて屢々緩解す而して發作は漸次或は卒然に消失す又之れに嘔吐を兼發することあり

歇私的里性婦人に於ては往々同時に食慾缺乏し或は異味を嗜み或は飢餓狀の食慾を催起することあり
發作は時として飲食に由りて誘發せられ時としては全く之れに關係せざることあり

純粹なる神経性胃痛に在りては刺戟なく且つ消化の易き食物を喫するも屢々胃痛發作あり之れに反して強劇の酒類或は辛辣食物は却て能く之れに堪ゆることあり

胃痛は爾他の神経痛即ち子宮及び顔面の神経痛、偏頭痛等を併發することあり其他呼吸促進、梅核氣、流涎、不眠等の諸症を現はすことあり
注。純粹の胃痛と胃潰瘍との診別困難なることあり殊に嘔吐を發する時に於て然りされど胃潰瘍に在りては局部を壓すれば多くは疼痛増進し而して間歇時と雖も全く緩解を覺ゆるは少なし

歇私的里及び子宮病等を有する者に於ては胃痛は多く神経性なり

療法 胃潰瘍に基因する胃痛は患者蓐牀に就き腹部に濕褌法を施し出血停止の暗示を用ゆるべし而して食療養としては牛乳、粥飯、豆腐を與へ斯くて輕快に至りし時は截挫せる柔軟なる鳥肉及び牛肉、鯛、鰯等を與ふべし鶏卵及び肉食は此患者に於て比較的能く堪ゆるものなり

神経性胃痛にして全身の營養障害殊に貧血に由りて發する者に於ては滋養物を與へ強壯劑就中鐵劑を用ゆべし

食療も亦緊要にして時には電氣マッサージも效あり然れ共是れが原因子宮障害に在りと認めたる時は速に其治療を施すを最良とす
催眠暗示は神経痛の條下に倣ふべし

腸加答兒

原因 本症は多く飲食物の不良及び醱酵を起すべき物未熟の果物強劇の下劑過度の冷物、磺酸亞爾加里、砒石等の中毒に由りて之れを發す又往々腐敗に傾く糞尿の蓄積、果物の核子等停滯及び饒多の蛔蟲に於ける腸刺戟に基因するものとす

經久の門脈系鬱血は往々慢性加答兒を將來することあるも全身の靜脈鬱血に因て之れを發することは甚だ稀れなり又隣接せる諸器官の所患即ち胃加答兒、腹膜炎、女子生殖器炎等の波及するに由りて之れを發することあり感冒は本症の發生に大關係を有す食物及び土地の變

換も亦然り窒扶斯、産褥熱、虎列刺膿毒症、赤痢、重症麻拉利亞等の一分症として屢々之れを見る又皮膚に於ける廣大の火傷は強劇の加答兒を誘起す其他原因不明に屬すべきこと多々なり

解剖所見 急性加答兒は稀れに全腸管を平等に侵襲することあり然れ共多くは廻腸の下部及び結腸又は空腸十二指腸等を侵す其粘膜は赤腫し劇症に於ては粘膜内に細胞滲潤及び小出血を來し加之粘膜下組織の漿液滲潤を見る

慢性加答兒に在りては粘膜の血管擴張して暗赤色或は褐色を呈す時としては灰白石盤色と爲ることあり粘膜及び粘膜下組織肥厚して鞏固と爲り許多の濾囊腫大を見る若しリーベルクウーソ氏腺の排泄管閉塞する時は腺囊腫を生ずることあり又直腸に於て息肉狀纖維瘤を見る

又殊に小兒に於ては屢々萎黃病を發す

症候

急性腸加答兒は病勢の強弱又は部分の大小及び位置に隨て

自ら症候を異にす輕症なるものは全く其徴を呈せざること往々是れ在り而して劇症に在りては屢々熱度昇騰し舌上乾燥し若しくは苔を被むり口渴甚だしく頭痛を發す加答兒若し腸の大部分或は廻腸の下部より大腸に發する時は必ず下痢を來し初め稀釋の糞便を排泄するも後に至れば唯水様液を瀉下するのみ通利に先づ腹鳴し且つ便秘頻數の感あり若し患者食療を怠り粗惡の物品のみを喫する時は排泄物中に屢々消化作用を受けざる物を認むることあり下痢の度數は一晝夜數十回の甚だしきに至ることあり或は唯二三回のみに止まることあり其量甚だ多し

輕症腸加答兒に於ては身に違和を興へず胃に障害を發せざれば食思は常に良なり劇症と雖も永久症に非ざれば瀉下の度及び量の過多なるも體力及び營養に著しき障害を被むらざる者なり

本症の治癒に赴く時は下痢其度を減じ瀉下物は自ら糞便の性質に復す或は下痢卒然止み而して二三日間は便秘を起すことあり

十二指腸の加答兒に於ては其症狀大に腸加答兒に類す若し延て膽總管に及び之れが閉塞を起す時は黄疸を來たす者なり
空腸及び廻腸の上部に於ける加答兒は下痢を來たさずして經過すること多し

直腸の加答兒に在りては頻々裏急後重を發し粘液を排泄す若し之れに糞塊を混する時は粘液を唯其表面に附着するのみ而して經久症に在りては排泄物は自ら膿狀を呈するに至る

慢性加答兒に在りては便秘を起すを常とす而して通利在るも其便は硬固にして多量の粘液を含む往々其面に粘線を洩し或は粘液塊の附着するを見る時として粘液に代ゆるに義膜様の屑片或は連続する腸内面の管狀模型を以てすることあり

食慾減退、身體瘦削且つ脱力し皮膚蒼白を呈し吐腹に壓重緊滿の感あり精神沈鬱し往々之れが爲めに依ト昆埤兒に陥ることあり

療法

食療養の緊要なるは胃病に於けるが如し而して多くの腸加

答兒は單に食療法を嚴守するを以て自ら治癒することあり急性腸加答兒に於ては一時全く絶食するを最良とす食物の可否に就ては概して胃病の條下に倣ふべし

腸の疾患に於て下痢あるにも拘はらず屢々下劑を稱用せらるゝものなり其效主に蠕動機を亢進するに在りて其分泌を催進する作用を呈するに由るとす又或る下劑は腸の一部分の作用を旺盛ならしむるに充つるものとす而して是れ用ゆるの目的は左に在り

(一)腸管内に有害物即ち不消化物或は醱酵を起し刺戟する食物或は毒物(但し中毒の症候在る者には吐劑を用ゆるを以て優れりとす)糞塊、粘液、蛔蟲、外物等の存在する症

(二)腸管粘膜の分泌減少する症

(三)蠕動機緩慢となる症

催眠暗示 前述せし病原に由る者は下痢又は吐瀉暗示を用ひ又便秘せる者には勿論なり然れ共下痢を急速に停止するは注意すべきこと

なりとす以下は對症暗示を用ふべし

盲腸炎 盲腸包膜炎 盲腸周圍炎

原因 盲腸炎は稀れに見る所の疾患にして乃ち糞尿の蓄積、不消化物の停滯等に基因す

盲腸包膜炎及び盲腸周圍炎は多くは盲腸炎の波及或は盲腸の穿孔に由りて發することありとす然れ共稀れには感冒、外傷等之れが原因と爲ることあり又往々蟲様突起中に糞塊及び異物の侵入して炎症を起すに因ることあり其他盲腸周圍炎は屢々室扶斯膿毒症、産褥熱等の經過中に來り或は脊椎及び腸骨の腐骨疽、腹筋の膿瘍に續發することあり

症候 盲腸炎、盲腸包膜炎、盲腸周圍炎は彼此相合併して發するものなり故に之れを鑑別するは頗る困難なりとす

單純盲腸炎或は合併症にして最も盲腸炎の主患なるものに於ては初め消化不良、便秘等を起し其便秘は時々下痢と相交換す而して後局部

に於て屢々糞尿の蓄積に因する腫瘤を認め且つ感覺過敏となる者多し肚腹緊滿膨脹し往々疝痛様の疼痛を發し嘔吐を起し吐糞するに至る若し其佳良なる経過を取る者は通利に由りて多量の糞便を排泄し諸症候隨て消退す之れに反して経過中炎症腹膜に波及し盲腸包膜炎を起し或は盲腸後部の結組織に累及して盲腸周圍炎を發し時としては盲腸の穿孔を來すことあり

蟲様突起の炎は往々右腸骨部に於て時々疝痛様の疼痛を呈することあるも多くは其症狀潜伏するを以て唯穿孔を發し之れが爲めに右腸骨部より蔓延する腹膜炎を發し嘔吐を起す等に由りて初めて是れを徵知することあり

療法 糞便の蓄積する盲腸炎に於ては下劑を與ふべし盲腸包膜炎、盲腸周圍炎に在りては身體を安靜に保持し患部に水蛭を貼し且つ水囊を置くべし

催眠暗示 前記の療法を参照し糞便蓄積せる者には下痢暗示を良と

す亦疼痛在る患者には鎮痛炎症に對する暗示は最も緊要なりとす

第貳拾貳章 全身病

急性關節僂麻質斯

原因

本病に於ける普通の原因は後來感冒なりとす且つ實際上感冒より發起する例證を擧ぐる者少なしとせず即ち勞働に由りて發汗したる後卒然身體を冷却せしめ若しくは雨濕を被り其他久しく寒冷の隙風に抵觸し或は水中に業を營むの際此病を發するが如き是れなり又卑濕にして光線に乏しき居住に於て屢々之れを發起するは本症と感冒の關係を證明する適例なるに似たり以上の説は輓近に至りて大に變化爲し急性關節僂麻質斯は特別な有機的病毒の侵入に由りて起る處の傳染病なりとするの説行はる、に在り即ち本症は人體外に發育する小寄生體の偶然體中に侵入して

發する瘴氣毒性傳染病に算入すべきとの説漸く其眞價を増加するに似たり然れ共未だ其小寄生體を直ちに證明したる者なし又何れの道より侵入するやを詳にせず

此れに依りて之れを觀れば後説の如く感冒は本症の原因に非ずして其誘因と爲りて之れが發生を促し若しくは容易ならしむるものに過ぎず彼の卑濕にして光線に乏しき住居に往々之れを見るは畢竟するに濕地は乾地より小寄生體の發育に便爲らしむるが故なり又或る血族中に於て此病の遺傳性なることあり是れ恐らく其子々孫々同一の家屋に住居する時に於て然るものならん其他氣候及び土地に由りて多少の在るは是れ感冒に歸するより寧ろ小寄生體の發育に關すること多かるべし

本症は殊に十五歳より三十歳の間に多し男女に就ては差等なり一回之れを患ふる時には其素因を増加して容易に再感し易きものなり以上特發性の外屢々赤痢、猩紅熱、麻疹、產褥熱、微毒等に續發すること在

り

解剖所見

所患の關節を剖見するに強度なる赤色及び滑液膜絨毛の軽く腫起するを認む然れ共其上皮は剝脱せずして纖維素の屑片を混する透明帶黄色なる滑液の滲漏あり劇症に於ては充血及び腫脹は關節囊韌帶及び關節周圍に延及す而して其化膿する者は殆どなし屢屢死體に於て心囊及び肋膜の滲出物心瓣膜病等を見ることあり

症候

初期に在りては先づ全身に疾患在るを覺え數日間關節内脊背に不定の疼痛を感じ或患者に在りては其初めよりして關節の疼痛を呈することあり然れ共第一日に於て強劇と爲るは稀れなり大抵初發に侵さる、部は足或は膝關節にして其兩側の關節同時なることあり或は一側よりして他側に移ることあり其病の輕重に隨ひ續々速に他の關節に及ぼす而して其侵襲さる、部所を擧ぐれば下の如し腕關節肘關節肩胛關節膝關節手掌關節足跗關節指趾關節胸骨鎖骨關節脊椎關節耻骨縫際及び舌骨關節等なり患部は大抵紅腫焮衝し動作及び

壓迫に由りて疼痛頗る増劇す而して之れに接近する筋質に累及し亦腫脹疼痛あり往々横隔膜の侵さる、ことあり又許多の關節一齊侵さる、ことあり然る時は患者苦痛に堪へ難く其臥容を改むること能はざるに至る熱は病の輕重に由りて差異あり然れ共重症者に在りても四十度に至るは稀れなりとす皮膚には汗の分泌極めて増多し屢々粟粒疹稀れには單一の汗疹を發することあり

注意。本病には各種の合併症あり就中其多きは心臟の疾患にして心囊炎若しくは心内膜炎なり而して兩症同時に發起することあり體溫四十度以上に至る者は速に冷水療法を施すべし然らざれば死に至ることあり又四十度以上の體溫にして永く下降せざる時は往々心臟瓣膜症に陥り終に斃る、ものなり

經過

合併症なき者は大約二三週間にて治す然れ共劇痛の繼續したる者は關節強直を呈すことあり又數月を費せし者は所患の減退後に於て屢々心臟疾患精神異常頭痛等の繼發と爲りて來ることあり

豫後 合併症を除くの外佳良なり然れ共本症は最も再感し易き性となる

療法 温泉、水浴法、按摩、電氣、艾灸、鍼術、マッサージ等を用ひて治療すること有り
催眠暗示 疼痛緩解或は消散而して患所に強直状を呈せる者は無痛暗示を施しおき患部屈曲を命すべし若し患者自ら屈曲爲し能はざる時は術者之れを介保して徐々に屈曲爲すべし斯る場合には必ず其患部へ二時乃至三時間冷罌法(氷嚢)を施すべし高熱の者にも亦然り筋萎縮及び痲痺在る時は患部を摩撫し(マッサージ)其輕快或は全癒の暗示を爲すべし

慢性關節筋僂麻質斯

原因 屢々急性僂麻質斯より之れに轉じ或は初起より慢性症なることあり又再三急性症に罹りし者に於ては後來の發作は寧ろ慢性の性質を取り而して益々關節の持続的變化を殘遺す其原因又は誘因に

就ては概して急性症に述べたるが如し殊に再三の感冒及び雨濕水中の操業寒濕なる居室なり年齢は高年の者に多し

症候 一關節或は數關節多少強き腫起を來し而して疼痛は通常劇ならずも往々寒濕の氣候其他不明の原因に會して其痛を増進す所患の關節は多少強直となり又任他運動の際抗抵を爲すこと著し之れが爲めに大に疼痛を増劇す往々此慢性僂麻質斯よりして骨及び關節の疾患所謂畸形的關節を發起することあり本症に在りては關節内に滲出液の出づるは稀れなり而して之れを見るは急性發作を起す時に於て然り

本症にして遷延日を経る時は關節及び其周圍は肥厚して關節強直症を來す亦屢々筋僂麻質斯を合併する者なり

療法 急性僂麻質斯の條下に倣ふべし

筋僂麻質斯

本症の原因は急性僂麻質斯と略同様にして筋の疼痛を筋僂麻質斯と

名稱するに在り此誘引は寒冷及び濕潤の感動炎熱に曝露せる身體の卒然なる冷却殊に久しく同一の方向より來る隙風の抵觸する等なり

症候 疼痛は時として一部若しくは筋簇に限局し時として遊走性を爲し瞬時に其患部を轉換す其疼痛は或は徐々に初まり漸時増劇し或は卒然甚だしき劇症を以て起る是れ往々其筋の攣縮運動を爲したる直後に於て見る所なり而して偃麻質斯性頭痛は帽狀腱膜筋の侵さるゝに由りて發し頸筋偃麻質斯は帽狀筋時として胸鎖乳頭筋或は他の諸筋を侵さるゝものにして通常頭は斜なる位置を取り重症に於ては全く頭を動かすこと能はず所謂頸強直を來す胸筋殊に肋間筋の偃麻質斯は呼吸咳嗽等の際に劇しく疼痛を來す但し肋膜炎或は肋骨骨膜炎に由りて起す疼痛と誤認すべからず腰部偃麻質斯は屢々強劇に發起し身體を屈し或は廻轉するの運動は甚だしく疼痛を來たす其他軀體諸筋を侵すことあり

療法

所患部を溫保し其他輕度の皮膚刺戟劑(沃爾謨丁)塗布する

も效あり又電氣療法も有效とす
催眠暗示 一般偃麻質斯に對する順序に倣ふべし
再發を防ぐには總て身體に毛製の襯衣を用ひ務めて感冒に罹らざる様注意すべし

脚氣

本症の原因に就ては諸家其説を異にし或は米飯に歸し或は濕潤の地に歸し或は小寄生蟲に歸し未だ研究不明に屬す而して輒近寄生蟲説の漸々信憑するの價値を示せり然れ共該寄生蟲を證明したる者無きなり

症候

本症に罹りたる者は其顔貌初起に於て全く異常なきか或は水腫症に於ては患者は外貌少しく膨脹して蒼白を呈す
急性の重症即ち衝心性に在りては往々顯著なる皮膚青色を見る
歩調の變常は本症の特徴なり
體溫は合併症なき時は異度なし水腫症に在りては往々低下あること

あり若し體温の定度より昇騰する時は合併症在るか或は本病増悪するの兆なり

皮膚知覺の障害に就ては大抵知覺異常を見る即ち患者自ら之れを癩痺又は皮下蟻走狀の感覺ありと謂ふ或患者に於ては患部の皮膚と衣服の間に紙を挿むが如き感覺あるを訴ふるを見る該知覺異常は脚氣の最も初起に發する極めて重要な症候なりとす

筋の四肢萎縮及び運動痲痺は脚氣の主症にして患者先づ膝脛に無力を覺え隨て歩行漸く困難と爲る是れ兩腿の諸筋其機能を失すればなり

血行の障害は必然の發症にして殊に脈管運動神經に關する障害多しとす即ち心悸亢進脈搏増加を見る然れ共大抵は苦惱せしむるに至らず其重症に在りては常に心臟痲痺に陥らんとするの大危険あるを以て注意すべし

呼吸器は輕症に在りては僅に侵襲せらるゝものとする然れ共些少の運

動に由りて直ちに呼吸短促と爲るの狀は常に見る所なり

消化器は輕症に在りては大抵異常なし唯僅に舌に苔を被むり濕潤にして顫動せず食慾は多く減退す又或者は反て亢進することあり嘔吐は獨り劇症に於て見る所にして胃窩に壓重疼痛を覺ゆる者は極めて惡徵と爲す大便は多く秘結すると雖も下劑及び灌腸に由りて容易に順利す

脚氣に併發せる諸症 本症に併發すべき疾病夥多在りと雖も就中最も注意を要するものは左の諸病に在り

肺癆、肋膜炎、赤痢、腸窒扶斯、麻拉利亞、脊髓炎、脊髓癆、進行性筋萎縮、知覺鈍癱、腎炎、神經衰弱、歇私的里、精神痴鈍等是れなり

療法 本症に就ての特效藥は未だ是れ在るを知らず能くは對症療法にして其療法も亦甚だ多からず

唯豫防の一法として良效を見るは即ち其素因在る者をして夏期脚氣

地方を避けしむるに在り而して轉地療養は専ら賞用する處なりと雖も重症患者に在りては此運搬の際に身體を動搖するに由りて斃ることあり

然れ共已に發病せし者を脚氣地方内の高燥にして且つ健康に適する處に轉居せしむるも其效尠きなり初起の脚氣には全く身體を安靜にして健胃劑を投じ而して麥飯を常に喫せしむれば可なり但し重症に於ては運搬に注意して轉地爲さしむるを以て最良とす

本症の全經過中は務めて食物に注意し決して固形不消化物を食すべからず

催眠暗示 痲痺消散若しくば輕減而して患部四肢吐腹部口唇等に存する時は先づ下肢に向つて暗示すべし該暗示の奏效せし後に於て上肢或は吐腹も同時にするも可なり總て暗示は一回一箇所若しくば二箇所位に止どめ置くべし然らずして同時に數箇所へ暗示する時は必然注意散慢し患者に即時滿走を與ふること能はず之れが爲めに暗示

感性を充進爲すの障害となり隨て患者の信仰微弱となればなり其初回に於て效果の顯著なることを示したる時は患者の信仰著大と爲り所謂自己暗示を構成し經過驚くべき良效を呈す而して心悸充進、便秘、浮腫、食慾減退其他各症に就ては所謂對症暗示を爲すべし何れの場合に在りても患部を摩擦しつゝ、暗示するを良とす即ち摩擦は行爲暗示なり(参考書ベルツ氏内科病論)

第貳拾參章 生殖器病

月經閉止

月經とは殆ど整然たる時期を以て生殖機能を存する全經過中に來る所の子宮粘膜炎の出血を謂ふなり

此現象は春機發動期の始めに至る迄是れ無きものにして十一二歳の少女の子宮は殆ど初生兒のものと同なる所なし而して身體爾他の諸器關發育に伴ひ生殖器に於ても亦其發育を始むるものにして此發育

に就ては未だ明證する能はずと雖も恐らく卵巢内のグラーフ氏胞の發育に伴ふものならんブリューゲル氏の説に由ればグラーフ氏胞の發育に由りて絶えず卵巢神経に些少の刺激を與へ而して其中樞に刺激を及ぼし之れが反射は動脈性充血となりて生殖器に作用するものなりとす此説は漸々信憑す可きものなり

原因

月經閉止は營養障害及び重症患者に來ること最も多きなり萎黃病性の處女に在りては春機發動期後直ちに之れを來すこと甚だ多く又結核患者及び窒扶斯等の病後に來すことあり又脂肪過多の者に往々之れを見る精神感動に由りて一時月經閉止する者又少しとせず例之恐怖、悲哀、其他劇感然れ共是れ多くは歇私的里性の者にして一般の現象には非ざるなり

此所に興味在る一事ありラチホルスキー氏の説に由れば處女若しくは婦人にして非常に妊娠を忌畏する時は爲めに月經閉止を來すこと有りと言ふ

又換替性月經と稱するもの有り即ち通常の月經缺如するか若しくは少量なる際身體の他部例之鼻粘膜、肺、胃、痔疾、創面等より定時的に出血を來し之れが月經を代償することあり

生殖器病の症候として來る處の月經閉止を除くの外本症は通常身體の營養不給の兆にして之れが爲めにグラーフ氏の發育を妨ぐるか或は定時性充血生殖器に及達せざるに因するならん

療法

滋養物(肉、麥酒、葡萄酒最上の日本酒)を適度に與へ而して運動、水治法等を用ひ生活法を調整せしむる時は漸次治癒するものなり其他電氣療法も偉效を收むることあり

催眠暗示 器質的原因に由らざる者は其初回に於て奏效を爲すものなり即ち今日の何時に必ず經通を見るなり確に見ることを保證す故に其準備すべし右の暗示を試み若し奏效せざる時は次回に於て下の如く命すべし貴女の病は意外に頑固なり故に今より更に五回を要すならん然る時は如何に頑固なる症に在りても必ず經通するなり以上

の如く慰諭したる後に於て右の意味に於ける暗示を施し日々其觀念を強固爲らしむるべし然る時は大抵良效を得るに至れり

月經過多

本症の全身病的原因に關する者は甚だ稀れにして出血素質の者、血友病及び營養不良の者に於て屢々見る所なり、子宮出血と同視すること勿れと雖も之れが原因に就ては未だ明證せし者なし

療法

原因の不明なる時は諸般の療法を施すべきなり例之下腹に氷嚢を貼し或は腔内に冷水を注入し可成的身體の動搖を避けしむるべし

催眠暗示 患者安臥の位置を取らしめ務めて身體の動搖を禁じ且つ精神安靜に保持せしめ而して下の如く暗示すべし即ち月經輕減又は閉止等なり

月經困難

月經困難は屢々生殖器病、子宮頸狹窄、子宮屈折、腫瘍に因する狹縮、其他

諸般の一症候として將來するものなり又時には子宮粘膜の機能變調に基因することあり概じて月經困難には往々疼痛の伴ふものにして稀れには堪へ難き劇痛を惹起することあり

總て月經の際は健全なる者に在りても通常多少身體に變常を感ずるものにして即ち腰部に豐滿壓重の感覺を起し薦骨部に微痛を發し尿意頻數と爲るが如き是れなり而して其疾患として見るべき者は先づ原因を能く究め以て相當なる措置を施ざるべからず

月經痛

本症も亦多くは子宮疾患の一症候に過ぎざるものなり然れ共稀れには歇私的里性の者あるを以て一概にも論ずべからざるものなり而して患者は月經の際殊に其前に當りて特異の疼痛を發すること多し即ち下腹に一種固有の陣痛様感覺を來し之れが持續する者或は發作性に起る者等あり此疼痛は患婦を惱殺すること甚だしきものにして且つ他の官能に反射的作用を起すことあり即ち嘔氣、嘔吐、偏頭痛、食氣不

振眩暈不眠等を將來す

交接痛

本症の原因に就ては二様在り即ち交接器の疾患に由りて起る者と又歇私的里性の者となり茲に於ては二者區別すると雖も其素因は孰れも交接器の疾患に基くものなり而して歇私的里性の者に在りては往往既に色情の發起するや直ちに疼痛を下腹に將起し斯くて其情の消失するや疼痛も亦消散す予の實驗中本症の最も劇甚なる患婦在りたり开は患者自身に於て色情更に發起せざると雖も他人の談話(色情的)若しくは繪畫或は文章等に由りても直ちに疼痛を將來す但し一回の施術に由りて全愈爲し爾來毫も差支無しと謂ふ)

以上の四症は畢竟するに子宮疾患の一症候たるに過ぎざると雖も稀れには子宮毫も異常なくして前記の症狀を呈する者在り

療法

月經閉止の條下を参照して對症療法を施すべし
催眠暗示 是れ亦右に倣ひ適宜に用うるべし参考書朱氏婦人科學

陰萎

本症は交接時に際して陰莖萎縮を將來し更に其意志に伴はず而して色情は常人より反て興奮し常に精神上の苦痛を覺ゆるものなり

原因 房事過度、飲酒の濫用、生殖器病等にして屢々神經衰弱症の一症候として顯はるゝものなり又脊髓癱瘓、脊髓炎等にも隨伴することあり稀れには精神感動より陰萎を惹起するとあるなり(予の實驗中患者幼年頃蛇を殺すと一種の嗜好となり常に山林田野等に至りて之れを撲殺し以て彼れ無上の快樂と爲し居れり其母は之れを耳にしたる都度嚴訓して曰く汝蛇を殺す勿れ蛇には怨靈在り將來是れ止めざるに於ては汝生長の後ち妻を娶れば蛇の子を生産するならんと而して患者は年長けるに隨て漸々其念消失し郷里に於て中學校を卒へ東京に來りて或る高等學校を卒業し二十五歳にして結婚す此日卒然少年時代に母に訓誡されしこと(即ち蛇の子)を追想し同夜より陰莖萎縮症に陥り爾來三箇年を閱するに夫婦間の交際を全ふする能はず予の許に

來りて五日間の療養良く其効を奏し患者喜悅豐滿の狀を呈し去れり
療法 先づ原因に對する處置を施し而して對症的療法を用ゆるものなり然れ共本症の経過は往々緩慢なるものにして管に原因療法のみにては容易に其效を見ること些し經驗有る醫師の多くは對症療法に重きを置くなり即ち常に接せざる婦人に接することを良とす
催眠暗示 汝今より五日乃至一週間の後に於て交接すべし然る時は其全治せしことを確信するに至るなり
斯くて毎回右と同一の暗示を反復し患者其全癒たることを深く信仰したる時は既に治に就くものなり蓋し原因の如何に由りては必ず同一の結果を脩むることは難きと雖も本症の多くは機能障害より發起するものなるが故にて暗示の奏效は著明なるものとす
早漏
本症は交接に際して屢々内陰に達せざる間に精液を漏出し甚だ不快の感を覺え且つ其佳境を経験する能はざるものなり

原因 房事過度手陰飲酒濫用神經衰弱症精神感動麻拉利亞猩紅熱稀れには感冒等より起來することあり
療法 先づ滋養物を與へ其素因を避け而して常に強壯劑を用ひ電氣水治法運動療養溫泉海水或は山中に靜養し轉地法も亦往々效を奏するものなり
催眠暗示 五日乃至一週間房事を嚴禁し而して陰萎に於けるが如く爲すべし
遺精
本症は睡眠中に於て精液を漏出するものにして稀れには通常(醒覺)に在りて放尿の際精液漏出する者あり
原因 手陰房事過度神經衰弱飲酒濫用窒扶斯麻拉利亞猩紅熱胃病其他腦疾患等の一症候として起來す
療法 一般療法としては早漏症の條下を參照し適當なる處置を採るべし

催眠暗示。汝の遺精は治癒せり爾後決して再發せざるなり全く然り予は之れを保證するなり斯の如き暗示を再三反復すべし蓋し本症の多くは二三回の暗示に由りて治癒するものなり稀れには經過緩慢なる者ありと雖も其輕快を覺え從て患者全癒の念を強め終に必ず奏效を見るに至るなり

夢精

本症は遺精と同一なる症狀にして唯異なる點に至りては前者は睡眠中無意識的に精液を漏出し後者は睡眠中交接を夢想し而して精液漏出するものなり

原因 前者と略同一なりと雖も屢々色情の興奮其主たる原因となることあり

療法 前條下に倣ふべし

催眠暗示。汝今夜より色情に關する夢想は一切描かざるなり既に夢精も亦全癒せしなり以上の外は總て前條下に參照すべし

遺尿

本症の根原は往々不明に屬す者あり又脊髓疾病乃至膀胱の變態に因することありされど遺尿の直接原因は膀胱括約筋の弛緩せるにあるや明かなり

凡そ尿液の膀胱中に蓄積するや括約筋は其反射として收縮するは是れ生理的作用なり然るに該患者に於ては此作用を缺如するが故に睡眠中泄尿するものとすされど是れ當らず何んとなれば括約筋其物に解剖的損傷の生ぜしものとすれば醒覺中に於ても堪へず泄尿するものならん膀胱痙攣に陥りし者右の事實より論ずる時は以上の如く決して單純なるものに非ず而して余は本症と腦の關係は漸々密接なるが如く思惟す即ち余の實驗せし患者二百八十二名の内二百五十三名は腦疾患若しくは惡癆(所謂不良少年)或は精神遲鈍等に在り之れに由りて觀れば括約筋の病的變化を是認すると共に腦の異狀及び精神機能にも又一考を要すべき者なり人幼時の頃便所に至り而も心地能く

排尿せし夢想を實地に演ずることあり又該夢想を描き排尿したるも醒覺後に於て之れを喚想爲さざること無きを保せず斯る現象は既に膀胱に一定の尿液蓄積し之れが腦を刺戟し其刺戟が即ち夢想(泄尿)の原因となるにあり而して患者は毎夜遺尿するものと一定せず即ち定期性に來る者あり或は間歇的性の者あり又は數日乃至數月の後に於て來る者あり此現象より推すも器質的變化に益々疑ひを挿まざる可らざるに至るなり通常健態の者に在りては尿液の膀胱に蓄積するや其刺戟に由りて醒覺し以て催尿を意識する者なり然るに遺尿患者に在りては其刺戟微弱なる乎或は刺戟は通常人と同等なりと雖も之れを收領する其中樞の反應微弱なるが故に醒覺の域に至らざるかに在り要するに尿は意識を以て或一定量迄は押迫すると共に又少量と雖も排泄爲し得べきものなるを以て本症は精神機能に多大の關係を有するや明なり往時遺尿者には其寢具を脊負せ加之夫れに「此者は昨夜寢小便せしなり」貼札を爲し一町内若しくは數町内を連れ歩きしもの

なり斯くする時は大抵治癒せしものとす以上の手段は心理學上聊か興味あり且つ治癒の理由も亦説明され得べきものとす

療法 原因の明なる者は之れに遡て處置すべし而して所謂特發性の者は先づ水分の飲用を禁じ腰部を温め且つ滋養物を與ふべし而して凡そ二三時間毎に醒覺せしめ其都度必ず排尿爲さしむるべし
催眠暗示 「就眠の際下の如く注意すべし即ち遺尿してはならぬ催尿將來すれば必ず醒覺せねばならぬ」以上の暗示を再三反復し少なくとも五回乃至七回の施術を要す偶々一回にて成功する者ありと雖も之れを以て全癒せしと認むるは輕卒なり何んとなれば多くは數日乃至數月の中に再發する者なり故に暗示觀念の固着する迄は繼續すべし蓋し暗示觀念は一回にても固着すべき性質なりと雖も其程度に於て治未治の結果を生ずるものなりとす

第貳拾四章 眼諸病
 近視眼

近視眼は往々唯稀れには透明體の屈折力増加するに因す是れ角膜若しくば水晶體調節機痙攣の穹窿増加し或は水晶體の前方に脱位するに續發するものなり

原因 本症には先天性と後天性なり其何れに在りても近視眼は視神經穿入部に於て鞏膜の軟弱なるに在りとすされば往々急性病(麻診痘瘡等の類)後に於て近視眼となることあり又平素頭部を前屈する業務に従事する者は眼球に虚性充血を來し同時に調節機を緊張し隨て甚だしく視軸を輻湊するに由りて眼球の擴張を將來するを以て遂に近視と爲るに至ることあり

近視眼は主として開化せる人民及び上流の人に来り都人士に多くして田舎漢に少しコーン氏は一萬人の學童に就き百分中八の近視眼を見出せり而して高等學校に於ては近視眼の數は毎級増加するものなり(殊に現時の大學生に至りては殆ど近視眼ならざる者無きが如し)近視眼は多く二十五歳頃まで急速に進行し然る後終身停止となる老

年に至れば其瞳孔縮小し圈暈微小となるを以て假りに近視の減少するが如き狀を呈す然れ共實際上近視の減少するは高老に至り水晶體の屈折力減少するに由るものなり

近視眼は又終生進行性なることあり而して其進行するや通常の炎症狀即ち内部の充血網膜刺戟粟粒狀脈絡膜炎等を誘發す是れ多くは差明及び眼の疲勞等に因するものなり

療法 近視の平癒は殆ど望む可らざるものとす唯其進行を防禦するを得るのみ而して之れを防ぐには通常近視に要する輻湊作用を避けざる可らず故に患者をして適當なる距離に於て讀書及び就業するに慣習せしめ又頭部を前屈することを禁じ且つ遠隔の距離に於て視力表を認知するを練習せしむ可し

眼鏡は近視の遠點に相當の曲光力を有する凹面のものを用ひて近視を中和せざる可らず(主として遠所に於て充分明視するを得る最弱度の凹面眼鏡を選択して之れを使用せしむるべし)而して近距離の所に

於て就業する時は必ず其使用を禁すべし然れ共近視強度にして物體を甚だしく眼に接近せざれば認知し難き者には平生弱度の凹面眼鏡を使用せしむ即ち此眼鏡は遠點を甚だ遠隔せざる距離に變置するを以て通常の就業には適當せり尙遠隔の距離を視望するには有柄眼鏡コンタクトを副用せしむ可し總て選擇する凹眼鏡の度は現在の調節力に隨はざる可からず若し現在の調節力より強度なる眼鏡を使用する時は眼球は楕圓形なるが故に間接に瞻視を障礙し而して視野を狭小にす其他物體を縮小するが故に之れを眼に近接し爲めに多々強激の調節機緊張及び視野輻湊を將來す

催。眠。暗。示。先づ施術前に近視の程度を検すべし眼力表を用ひ乃至新聞雜誌の如き物の文字を認知出來得る距離に於て爲さしめ其距離幾呎幾時なるやを記載し置くべし然る後に於て施術し暗示汝の近視は必ず癒すに在り故に汝も其觀念を強固にすべし汝の觀念が強固なればなる程治療の迅速なるに在り強くすべしを々々以上の如く暗示を

數回反復爲しおきたる後大に輕快したるなりいざ是れを視よ以前の試験器を以て檢せよ然る時は何人も必ず多少の効驗を認め得るなり此時尙進で遠視を誘導すべし其手段としては例之施術前に一呎の距離に在りて五號活字を認知せし者には催眠中一呎二吋位の距離に於て之れを讀ましめ書物を視覺爲さしむる場合全く明視したる時は暗示汝は既に輕快爲し居れり能く明視出來得るなり全く然り右の暗示を爲しつ、徐々に對象物體を遠所に移すべし然る時は或程度に達すれば患者認知不能なることを告るに在り此場合は今に能く認知し得らるなり夫れ斯如なりと少く近接すべし斯くすれば通常の場合に於ても明視出來得べきは當然なれ共是れ所謂誘念法なり即ち患者の信念を發揚爲さしむる所的手段なり患者認知を告る時は又以前の如く徐々に遠隔すべし上來の暗示言語行爲を反復なしたる後三吋乃至五吋（施術前より）遠視を得るに至らば一先づ中止し翌日更に治療を施すべし（前日同様）然らずして一回にて強劇の矯正を爲す時には間々調

節機に激變を生じ血膜炎を發起し又稀れには弱視等に陥る虞れあり次に最も注意すべきは眼鏡なり治療に由りて偶々近視の瘥さんとするに際して均しく從來の眼鏡を使用し居る時は治療爲せし日は其效顯なるも翌日に至らば前日も更に異ならず是れ即ち一旦或程度迄遠視得ることに至りたりと雖も眼鏡に由りて視力を調節するに依るなり故に眼鏡を使用の止を得ざる時の外は一切夫れを禁ず可し且つ希くば毎日弱度なる眼鏡と交換爲さしむる可し

遠視眼

遠視眼は角膜に向て來る光線のみを其網膜に於て結合し得るものにして併行に來る者は之れに反して其後方に於て初めて結合するに至る是れ先天性(屢々遺傳性なり)に眼球の尖狀軸短縮發育不全するに因するものなり然れ共其際多くは諸他の直徑も亦短小す遠視性の眼球は一般に正視性のものより微小なるが如し其他遠視眼水晶體缺亡症後に發し又中心磨滅に依りて角膜の扁平となるか或は滲出物若しく

ば腫瘍に由りて網膜の剝離せらるゝに因し亦往々黒内障の初期に發す遠視眼は屢々ある處の症にしてコーン氏は六歳乃至十三歳の兒童四百八十名の中三百七十名の遠視眼を發見せりと在る而して遠視は通常下の如く分類爲すものとす

(一)眞遠視。是れ全調節領即ち遠點及び近點皆な無限外に存する者なり再言すれば假令最強の調節機緊張を以てするも凸面眼鏡を使用するに非ざれば更に遠所を明視すること能はざる者なり約言すれば遠視の度調節力より過大なる者は是れなり

(二)關係遠視。是れ併行及び開散の光線に調節するを得ると雖も唯其視軸關係的の強度の輻湊をするに當りて之れを爲し得るのみ再言すれば調節すべき點の近所に輻湊するに當りて即ち唯一眼視するに當りて爲すを得るのみなり

(三)不全遠視。是れ甚だしき接近の距離に非ざるに於ては凸面鏡を使用すると否らざるに關せず物體を能く明視爲し得るものなり

抑も調節力は年齢と共に減少するを以て幼年の者には多く不全遠視を爲す而して調節力の年齢と共に減少すると同比例に先づ關係遠視と爲り終に之れより眞遠視に陥るものとす
療法及び催眠暗示は近視眼の反對を採る可し

夜盲

本症は往々遺傳の素因を爲す又單純なる神經性より將來し或は時としては流行性に來ることあり而して其何れに因するも概括的に論ずる時は營養不良に由るものとす
夜盲は日光若しくは概して強光中に在りて視力視界共に健全にして敢て平時に異ならずと雖も光線の減少する時は夫れに比準して中心視力頓に減衰し且つ視界狭小となるに在り
昔時は夜盲を日中の時刻に關涉すと信據せしが曾て然らず即ち日中何の時に在りても光線の減少するに於ては其障礙を發す殊に卒然明所より闇所に於て甚だし

又光線減少する時は視力に等しく色覺も減衰し唯光力の強き色の辨識力を存するのみなりアルフレード・グレイフ氏は光線減少すれば眼の輻湊運動困難となり三稜鏡を過勝す可き作用減衰し且つ調節力の減少するを實驗せり

本症は通例兩眼に來るものなり而して檢眼鏡的變化は通常缺如す

療法

先づ營養を改良せしめん爲には肝油を與へ且尙滋養品(牛乳

鶏卵肉類)を供給すべし而して暗青色の保護眼鏡を裝するか若しくは暗室に居らしめ以て強烈光線の作用を防禦すべし其他電氣運動等も往々奏效を見るに在り概して本症は豫後善良なるものなり

催眠暗示 汝の夜盲は既に癒せり必ず今夕は物體を明視するを得るなり若し否らすとも確に認知するを得るなり汝其觀念を鞏固にす可し以上の暗示を再三再四反復す

網膜知覺鈍癱 (晝盲)

本症は主として女子及び小兒の疾病にして男子には甚だ稀れなりと

す(ジール氏)通例歇私的里乃至皮膚知覺神經の鈍麻若しくは知覺過敏の如き他の神經病と併發し屢々或運動神經の痲痺と陪伴す又齶齒より來る外傷的反射刺激其原因となることあり又ハ、パーゲンステーヘル氏は患部を壓する時は著しく疼痛を發するに由りて徴知すべき延髓病機の反射として網膜知覺鈍麻の起るを實驗せり

症候 中心視力は通常僅に減衰すと雖も所謂網膜疲勞を起して患者同一なる視力を久しく保持することを得ず、即ち網膜忽ちに疲勞し物體判然たらず若しくは全く之れを視覺なし能はざるに至る、又時には同時に網膜の知覺過敏を將來し患者羞明し若しくは光象及び色象を自覺す

療法 患者を暗室に居らしめ極て徐々に明所に移すを要す平流電氣も亦時には偉效を奏することあり概して本症の豫後は善良なるに在りて曾て失目に轉することなし
催眠暗示 「汝物體を明視するを得らる、なり既に明視出來得るに至

れり其觀念を固執すべし以上の暗示を反復爲しおき然る後ちに物體を示し確答を待つべし若し其成績不良なるときは暗示を強く且つ反復し兎に角患者の信據を得る迄は繼續すべし然るに尙不成績なる時は一先づ停止し翌日右の順序に由りて施行すべし斯る場合は必ず催眠の度を強く所謂睡遊状態に爲しおき尤も嚴格に而かも命令的に爲すべし

色盲

本症の原因に二様あり即ち先天性後天性是れなり先天性は勿論遺傳にして殊に女子に多しとす蓋し女子に多きが故に遺傳は母の血統に基くこと多し而して先天性色盲は他に視力障害を起さず且つ檢眼鏡的變化を呈せず往々兩眼に將來するものとす

色盲の區別は各人其説く所を異にせりヨングヘルムホルツ氏は紅色盲綠色盲及び青色盲の三種に類別せりヘーリング氏は紅綠盲及び青黃盲の二種とせり其他全色盲と不全色盲即ち色覺減衰との二種とせ

る者あり以上の分類法中最後のものを採るを可とす即ち「甲」は一原色の感覺性全く缺損し「乙」は久しく注視する後ち初めて其色を明辨するを云ふなりコーン氏の検査に依れば凡そ色盲者は赤色の硝子を透過して「ステルリング」の表を読み得るが故に若し之れを読み能はざる者は詐偽なりと思惟すべし
全色盲に在りては各種の色を唯各異の黒色及び白色なりと陳述するものにして其感覺系統は一端に黒色他端に白色中央に灰白色を印する直線にて標示すべし

後天性色盲は他の弱視性障病を兼ねざる場合甚だ稀れなり蓋し色盲を發起する眼病中諸般の脈絡膜網膜炎は最も稀れに合併するものにして其多くは視神経障病に因す殊に視神経萎縮症に於て然り其他網膜萎縮症も間々色盲を喚起す又諸種の弱視も本症を合併すること尠しとせず

療法 先天性の者は殆ど術なし然れ共後天性の者に在りては原因

療法を施する於ては多くは治癒するに在り
催。眠。暗。示。 患者認知不能なる色例之青色盲に在りては汝は最早青色を視ること常人と更に異らす能く明視するを得るなり故に其觀念を鞏固にすべし今此所に於て必ず明視得る、なり斯く暗示したる後ち現物即ち青色を示すべし時とし患者不判明なることを告る場合あり斯る場合は暗示を強迫的に爲すべし又全色盲者に在りては一回に一色乃至二色宛教育的に爲すべし各色を同時にするは注意散漫するを以て反て暗示力を薄弱ならしむるものなり

眼の運動機障害

眼筋痲痺は往々痲痺質斯性原因に基く殊に牽引神経痲痺に於て然り時としては微毒性誘因に由る又動眼神経痲痺に於て著明なり其他蜜尿病、腦脊髄腫瘍等に續發し或は一時腦の動脈性充血若しくは虚性充血を催進する各障害後に起ることあり

(二)外轉神經痲痺 痲痺の發起に前驅して患側の頭半殊に額部を刺

甚なる僕麻質斯性疼痛を發すること往々是れ在り而して痲痺の最近なる續症は患眼を外轉し能はざるにあり

外轉神經の萎弱に在りては患眼大に勞苦し且つ製摺狀運動を爲すと雖も尙外轉生理的境界に達し得ること間々是れあり然れ共完全痲痺に於ては往々中線を超えて外方に旋轉すること能はず(但し運動機の減少を是認し能はざる症に於ては聯合眼運動の際複視の發起するに由りて之れを斷定し得べし)

例之右眼の外轉神經痲痺に在りては各聯合運動の際右眼正直視し且つ左方に共動す然れ共右方に聯合運動をなす時は右眼其運動機境界に止りて視軸の異常なる輻湊を起し以て所謂同側複像ヲ生ズ該複像は常に直立し且つ併行す是れ外直筋は眼を地平面に於て右旋するが故なり若し外轉筋の痲痺完全にして已に正直視するに方りて其筋内直筋に平均を保持し得ざる時は此視方向に於て複視を發起す而して着眼物愈々多く痲痺側に運動し視方向共に追隨する時は從て

複像の距離益々多く増加す

複視像は下降せる視平面に在りては地平の視平面に於けるより廣きこと常なりとす既にして下降せる視平面に於ては視軸輻湊するを通過例とす又複視像は人若し着眼物を以て痲痺側より健側に行く時は之れに反對なる時より大なりとす蓋し乙の場合に在りては甚だ強き神經感應に頼りて永く兩眼單視を固持し既に發生せる複像を合一せしめんが爲に強力なる神經感應を發動せしむるの傾向を現存す

抑も患眼の内直筋は痲痺せる外直筋の對抗を失却せるが故に痲痺の持久する時は屢々短縮の状態に陥る然る時は複視は視界の全部乃至最大部に蔓延す

攣縮に起因する内直筋の短縮及び之れに續發する眼の内方變位は屢已に病の初期に於て來ると雖も亦病の全經過中毫も判然たる内方變位を起さず唯痲痺筋の作用を要する視方向に於てのみ異常なる輻湊を現はすことあり若し内直筋の短縮を起す時は將來其状態に固定

し爲に外直筋の痲痺退散するも尙固有の輻輳斜視を残留す
諸眼筋痲痺に於て概ね發起する他の一症候は所謂視眩暈即ち視界
の假性投視是れなり
凡そ物體の位置を判するに視軸を正定するに必要な筋の收縮度殊
に吾人の意思を以てするものなるが故に今外直筋痲痺して視軸を物
體に向くるに強き意思を要する時は尙慣習せる常態にありと信する
患者は不隨意に使用したる筋收縮を遙に外方に存する物體に屬せし
めば該物體を尙外方に在りと思惟す之れを以て若し右眼の外轉神經
痲痺を患ふる者をして左眼を掩ひ自ら指の運動に注意するの猶豫な
く速に指を以て視界の右側に存する物體に向く可しと命する時は患
者其物體を指示せずして常に其右方を示すものなり
又患者は通例其頭首を斜保するの癖を有す是れ頭首を回轉して痲痺
せる外轉神經の作用を補翼し以て複視及び視眩暈を減却せんと欲す
るが爲めなり又同一原因に基き患者物體を常に視界の健側に偏持す

るは例規なりとす

(二) 動眼神經痲痺 動眼神經は上直筋内直筋下斜筋調節筋及び上眼瞼
舉筋を領司せるが故に該神經痲痺する時は極めて固有の症狀を顯す
即ち上眼瞼は下垂して外眥他側の外眥より著しく低下し眼球は其之
れを後方に牽引する筋の痲痺に由りて往々著しく突出す痲痺性眼
球突出症是れなり

(三) 斜視は筋の痲痺に由りて發起する眼の變性に反して筋の短縮に起
因するものなり

斜視

斜視に在りては兩眼の視線注視點に於て相合せずして其一該點の
前若しくば後方に注射するものなり其働斜視は左件に由りて痲痺性
斜視より區別す即ち其患眼は他眼の運動に方りて停止せず同等なる
神經感應の規則に従て他眼を同一なる方法に於て諸方に相伴ふもの
なり而して斜視を分類すれば左の如し

- 一 輻輳斜視
- 一 停止性偏眼斜視
- 一 變換性輻輳斜視
- 一 定期性輻輳斜視
- 一 開散斜視

療法 原因に基き各處置すべきは勿論なりと雖も概して近視に於て採る方法を基とし外科手術の外其他は對症的に爲すの外他に良法なきものとす暗示も亦之れに倣ふべし(參考書歌氏眼科學)

催眠術治療精義全終

明治三十八年四月十八日印刷
 明治三十八年四月廿二日發行



發行者兼

印刷人

印刷所

東京市本郷區西片町拾番地

小野福平

東京市京橋區築地參丁目拾五番地

野村宗十郎

東京市京橋區築地貳丁目拾七番地

株式會社東京築地活版製造所

催眠術治療精義全終

正價金九拾錢

(郵稅金拾錢)

東京市本郷區西片町拾番地

大日本催眠學會

東京市本郷區本郷壹丁目九番地

東京市京橋區築地貳丁目六番地

發行所
 大賣捌所
 取次所

東亞林堂

大日本催眠學會編纂

五月
下旬
發行

催眠學界

●正價 金壹圓貳拾錢
●郵稅 金拾貳錢
●頁數 五百頁以上
●版數 總一〇一〇式洋裝式

本書の内容論說 ●心理的療法に就て小野福平 ●精神中の統一作用に就て岡田法學博士 ●催眠と觀念運動の關係を論ずる文士福來友吉 ●催眠博士大谷周 ●催眠術の効驗に就て伊藤修二 ●信仰と治療 ●醫師塚原傳 ●敢て岡田法學博士に對す高宮金治 ●催眠術に就て醫學博士見息忠 ●精神的刺戟に就て小野福平 ●催眠術の利害に就て醫師土居成美 ●メスマリズム文士福來友吉 ●催眠術と民法との關係法學博士志田御太郎 ●催眠の原因を論ずる小野福平 ●催眠術と醫學博士福來友吉 ●催眠術と民法との關係法學博士志田御太郎 ●催眠の原因を論ずる小野福平

獨逸レーウエンフェルド氏原著
日本文學士 福來友吉氏解説
催眠術 完

實驗治療 ○教育 ○惡癖矯正 ○神祕的現象各數十件 ○雜錄

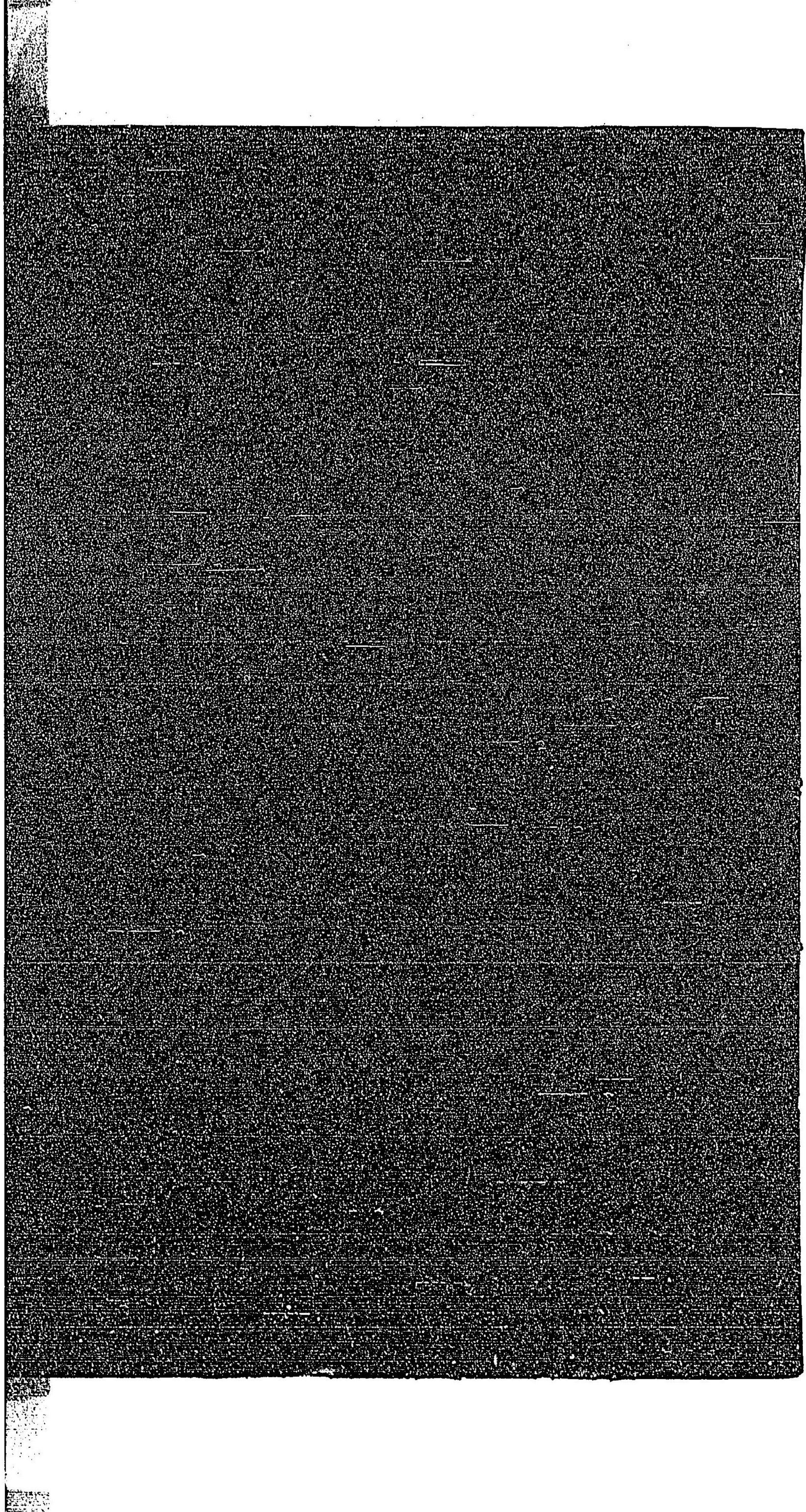
數十件は輓近内外の斯術狀況を記せり
●本書は斯道研究者の良師良友たるは既に都下及び各地新聞紙の評論せる所にして敢て贅言を要せず今回之を合本して汎く同好者に頒たんとす
請ふ一卷座右に備へられよ

發行所

東京市本郷區
西片町拾番地
東京市本郷區
郷壹丁目九番地

大日本催眠學會
東亞堂

60
175



60

175

058615-000-5

60-175

催眠術治療精義

小野 福平/著

M38

CBC-0137



